慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	中国語教育における「語義記述の方法」に関する考察 : 「訳語」以外の方法の適用性を中心に
Sub Title	Examination of "lexicographical interpretation" in Chinese language education : a focus on the applicability of methods other than "translated words"
Author	浅野, 雅樹(Asano, Masaki)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2016
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.111, (2016. 12) ,p.168 (37)- 184 (21)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	関根謙教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01110001-0168

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

中国語教育における「語義記述の方法」に関する考察

―「訳語」以外の方法の適用性を中心に―

浅野　雅樹

0．はじめに

日本で出版され、使用されている現代中国語の辞書や授業用の教材においては、日本語の訳語で語義を示す方法が一般的に採用されている。学習者にとって目標言語のみで構成される所謂「中中辞典」や中国の国際漢語教育（対外漢語教育）の教材においては、語句に対して同じ中国語で語義の記述をすることが多い。中国語で“释义法”（語義記述の方法）[1)]と称され、主に辞書や教材において語句の意味を記述する方法は、辞書学や語学教育の領域で注目される研究課題の一つである。辞書、教材、教室等様々な教育の場で不可欠な語義記述の方法は、学習者の母語による訳語を付すこと以外にも、実際は多くの方法が存在している。語彙指導の観点から述べれば、複数ある中のどの方法を採用するのかという問題に対して、語の性質や特徴によって、その語に適した方法を選択し、使用する必要性がある。辞書の使用者や学習者のレベルに応じた語義記述の内容や方法の選択も、指導面での重要な課題の一つである。

本稿では、現代中国語の辞書や教材において見られる、主に二音節の実詞[2)]に対する語義記述の方法について考察を行う。まず先行研究で提示される方法を整理し、主に語の内部の語彙的性質や特徴に依拠し、語義記述の対象となる語と語義記述の方法との適応性を指摘する。その上、日本語話者の中国語学習者にとって有用性がある語義記述の方法について述べる。日本語話者の中国語学習者が使用する二言語辞書や教材において、訳語を付す以外の語義記述の方法に関する採用の可能性を探求することが本稿の目的である。

1．“释义”（語義記述）に関する研究

中国の辞書学や言語学界では、辞書における“释义”（語義記述）に関する研究が盛んである。章宜华（2011）、（2012）、黄建华（2001）、胡明扬（1982）、李尔钢（2006）では所謂「語義記述」に関して、主に原則、モデル、内容、構造、方法等の観点から体系的な考察および解説がなされている。また、中国の国際漢語教育界の学習辞書や教材の中での語義記述の問題については、高燕（2008）、刘座青（2013）、万艺玲（2010）、赵新・刘若云 (2009)、曾立英 (2010)、崔乐 (2011) 、方绪军（2008）等で論考が見られる。これらの中でよく問題として指摘され、議論の対象となるのは、英語の訳語の問題、多義語の意味項の処理、語義記述の中で使用されるメタ言語の難易度等がある。また、徐桂梅（2010）では日本人学習者に対する中国語学習辞書に関する分析がなされている。日本人学習者の辞書使用に関して、日本人学習者は日本で出版された「中日辞典」の使用を好むこと、辞書の見出し語の一番目の意味項目や一番目の訳語を重視する傾向等を指摘している。

また、辞書や教材において実際に使用される語義記述についての調査結果を示す研究もある。梁莉莉（2015:34－50 页）では、四部の中国語の辞書に対して、その中で使用される語義記述の方法について調査した結果のデータが示されている。語義記述の方法を六つに分け、その中で使用率が高いのは四部の辞書すべてにおいて“解释性释义”（解釈性語義記述）であり、その次が“解释性释义＋词语释义”（解釈性語義記述＋語句による語義記述）であるとしている。章宜华（2012:74－75 页）では、中国で中国語を学習する外国人学生に対してアンケート調査を行い、被験者が必要で、望ましいと考えている辞書の語義記述に関する調査結果のデータが示されている。その中で、“汉语释义＋汉语释义的英语译文”（中国語語義記述＋中国語語義記述に対する英語の訳文）と“只提供汉语释义”（中国語の語義記述のみ）の二つの方法は必要度が高く、“只提供英语对等词”（英語の訳語のみ）、“汉语释义＋英语对等词”（中国語の語義記述＋英語の訳語）の二つは必要度が比較的低いと認識している学習者が多いと述べている。

2．“释义法”（語義記述の方法）に関する分類

以下は、先行研究において提示される“释义法”（語義記述の方法）をまとめたものである[3)]。どのような方法が具体的に提示されているのかという点を調べてみると、各書、各論である程度の不一致が見受けられる。

	分類数	“释义法”（語義記述の方法）
赵新、刘若云(2009)	8	词语释义、解释性释义、解释性释义＋词语释义、解释性释义＋举例、公式释义、单纯例句释义、外语释义、图表释义
崔乐（2011）	9	词语释义法、语素释义法、定义释义法、描述释义法、说明释义法、举例释义法、功能释义法、完整句释义法、括注释义法
高燕（2008）	2 種（12 類）	整体释义法（直接法、翻译法、语义系联法、比较法、对比法、语境法、文化含义阐释法）、词语分析释义法（造词分析释义法、构词分析释义法、义素分析释义法、理据分析释义法、构形分析释义法）
万艺玲（2010）	4 種（7 類）	非语言法、母语法、汉语法（同义・近义词语、反义词的否定式、描写式、利用构词语素、举例法）、猜测法（利用语境猜测、汉字字形猜测）
方绪军（2008）	6	展示法、定义法、分析法（分解法）、语境示义法、举例法、翻译法

上表の中には、語義記述に関する原則やモデルの範疇、及び何を記述するのかという内容の面も含めて示されている。分類にあたり、使用する言語が目標言語なのか、学習者の母語で記述するのかといった問題。また、言語を使用するのか、実物、図や絵など言語以外の方法で語義を示すのかといった語義記述の原則的な問題も分類の基準とされている。さらに、意味的な面のほかに、文法的な用法面や語用面での事項を含めるのか、加えて文化的な意味を記述するのかといった内容に関する点も分類の基準となっている。

本稿では、これら原則やモデル、内容の面については考察の対象に含めず、あくまで語義を記述する方法という点、つまり狭義の語義記述の方法に焦点を絞ったうえで論述を進める。先行研究において提示される方法を参照し、さらに日本語話者の中国語学習者に対する有用性という観点も含め、4 章で示す 7 つの方法

を取り上げ、それぞれの方法に対し考察を行う。

3.「語義記述の方法」に対する調査

3.1　辞書における「語義記述の方法」に対する調査

２部の中国語学習辞書（《现代汉语学习词典》、《学汉语词典》）及び２部の中日の二言語辞書（『講談社中日辞典（第３版)』、『東方中国語辞典』）に対して調査を行なった。以下で、各辞書における、語義記述の方法に関する調査結果を示す。中国語教育において使用される語彙のガイドラインである《汉语国际教育用音节汉字词汇等级划分》の中の「词汇等级划分」を参照し、二音節の実詞について“普及化等级词汇”から 100 語、“高级词汇”から 50 語の計 150 語を無作為抽出し、調査をした[4)]。

	語句による方法	文の形による方法	括弧を用いた方法	形態素による方法	その他
《现代汉语学习词典》	24	111	10	4	1
《学汉语词典》	6	120	22	2	0
『講談社中日辞典』	115	20	15	0	0
『東方中国語辞典』	93	29	27	0	1

上表からわかるように、辞書において使用される語義記述の方法は、かなり限定的である。《现代汉语学习词典》と《学汉语词典》については、「文の形による方法」が多用されている。また、日本の『中日辞典（講談社)』と『中国語辞典（東方書店)』は、訳語を付すなどの「語句による方法」を主に使用している。

3.2 「語義記述の方法」の多様性とその使用に関する適用性の問題

前節の 3.1 で示したように、様々な方法があるものの、実際辞書等で使用されているのは極めて限定的であるという現状がある。一方で、個々の語が学習辞書や教材等でどのような方法により語義記述がなされているのかを観察すると、下記の“出現”のように、ある程度の相違が見受けられる例も一部存在する。

出现

（看不见的人或事物）让人看见了《学》[5)]

显露；显现；产生《汉》

①显露；显现②产生出来《现》

出来；产生出来。（中略）常做谓语。《用》

蓝色的天空～了几片云。→刚才天空还没有云，现在人们看到天空有了几片云。《当》

このように、ある一つの語に対して使用される語義記述の方法が画一的ではない状況に着目すると、方法の選択や適用性という問題を見出せる。語義記述の方法の選択は、決して一律的である必要はなく、各方法の適用性に応じた使用は語彙指導の面で注視すべき問題であると筆者は考える。語義記述の方法の選択は、主に語の語彙的性質や特徴に応ずる必要がある。具体的に言えば、語構成、形態素義の常用性や多義性、形態素義と語義の透明度など、語の内部の性質や特徴である。また、語の品詞性、多義性、語の意味項目による常用度と難易度、さらに日本語の漢語語彙との関係性など、語の総体的な性質も語義記述の方法の選択と適用性に作用する要素であると言える。その他、学習者の側から見た状況についても軽視できない。学習者の母語のほか、学習者のレベルや、ある学習者にとって、その語が初出か既習かといった要素を考慮する必要がある。

4．語義記述の各方法に対する考察

本章では個別の語義記述の方法について、辞書や教材における用例を挙げながら、どのような語に対する使用が適当であるのかという点を考察する。また、日本語話者の中国語学習という観点から、それぞれの方法の有用性と効果等の正の側面と、短所や使用上の注意点等、負の側面についても言及する。

4.1　語句による方法

語義記述の対象となる語に対して、語レベルでその語義を示す方法で、同（類）義語、反義語、関連語等を用いる。従来、最も基礎的な方法として認識され、以下のように、数多くの辞書や教材で使用されている。

精彩：完美；出色《现》　　清洁：干净《学》
拒绝：不接受；不同意《汉》　在乎：在意、介意《高级汉语口语上册：171 页》
反对：不赞成；不同意《现》　顽强：坚强、强硬《高级汉语精读教程Ⅰ：89 页》

教育面での語義記述において、本方法は最も常用される方法の一つである。しかし、一方で欠点が多く、その不十分さがよく指摘される[6)]。とりわけ非母語話者に対する教育では、本方法の使用を少なくすることが望ましいとされる傾向にある。本方法は章宜华（2012）で示される“简化原则”に準じているものの、そのほか“多维原则”や“分解原則”といった原則には抵触する方法であると見なさざるを得ない[7)]。

日本語話者の学習者が使用する、所謂「中日辞典」のような類の二言語辞書や、中国語教材においては、日本語の訳語を用いて語義の記述がなされることが圧倒的に多い状況が伺える。記述において使用する言語が、目標言語（中国語）か媒介語（日本語）であるのかという違いはあるが、訳語を示す方法は、「語句による方法」に属すると見なすことができる。一般的に初出の単語の意味を知るということは、訳語を知ることであるという認識や理解が一部の教師と学習者の双方にあると言える。しかし、訳語による記述は便利な反面、語義を完全に理解するためには不十分な面もある。

4.2　上下位関係を用いた関連語句による方法[8)]

4.1 と同じ語句を用いる方法であるが、語義を直接的に表示するのではなく、その外延性を応用し、語の「上下位関係」や「全体と個体の関係」により複数の関連語句を挙げて例示する方法である。

五金 : 金、银、铜、铁、锡的总称《现》
小吃 : 指卖的包子、馄饨、元宵等小食品《学》
家具 : 家庭用具，主要指床、柜、桌、椅等《汉》

語義記述の対象となる語が、比較的具体性を伴う事物を指し示し、学習者が未習語の場合でも、語義の類推がある程度可能な時に効果的な方法であると言え

る[9]。

また、特に上で示した“五金”の例のように、数字を用いた略語には、その数字分の例を示した上で、語義を学習させる必要性があるため、本方法の使用が適していると言える。

4.3　文の形による方法（定義、説明、描写の方法）[10]

4.1、4.2 のように語句を用いるのではなく、以下に示すように基本的に文の形式で語義記述をする方法である。

坏处：对人或事物有害的地方《用》
工龄：参加工作的年限《说汉语谈文化 (下)：87 页》
温馨：温和芳香，形容一种使人幸福的感觉《高级汉语口语下册：132 页》
婶子：对叔父的妻子的称谓（口语）《学》
环节：互相联系的许多事物中的一个《新》
拖鞋：后半截敞开、脚的后半部露着的鞋，一般在屋里穿　《学》
锤子：敲打东西的工具，前有金属等做的头，连接锤头的是柄《现》
独白：戏剧、电影里角色独自抒发个人感情或愿望的台词《高级汉语口语下册：97 页》
春联：春节时贴在门上或门两旁写有表示吉祥祝福语句的对联《现》
大爷：1 伯夫 2 对年长男子的尊称《现》

中でも、上から“坏处”、“工龄”、“温馨”のように中国語で“定义法”（定義法）と称される、「類＋種差」の形式で記述するものが主流である。2 章でも述べたように、中国で出版される所謂「中中辞典」では、本方法が最も多用されている。次の“婶子”、“环节”の例は、文の形で語の内部の意義素に応じて説明するタイプである。また、“拖鞋”、“锤子”のように、その事物の形状や性質を描写する語義記述がある。その他、“独白”、“春联”のように文化を色濃く反映する語については、文化的背景を踏まえた説明的な文で記述することが多い。 また“大爷”のように意味項目により、一つ目の意味では「語句による方法」を用いるが、二つ目の意味では、「定義法」を用いる例も見られる。

上で示した例のように日本語の漢語語彙の中に存在しない日中異形語に対し

て、本方法の使用が効果的であると考えられる。また、極めて抽象的な意味の語、文化義を強く帯び、学習者の理解に困難が伴うことが多い語などについても効果的であると言える。さらに社会の諸相を示す新語については、一般的に4.1、4.2で述べたような「語句による方法」の使用が適さないため、「定義法」など、「文の形による方法」が必須となることが多い。

一方、本方法の短所にも注意を要する。語義記述の原則である、「簡潔性」に抵触する可能性があるので、とくに教材の中の新出単語に対して用いる際は、より簡潔な表記になるよう注意を払う必要がある。また、記述に用いる言語の難易度の調整も課題となる。つまり記述の中に用いる文の表現や語彙が難しく、記述そのものが読み取れないといった状況である[11)]。

一部の語については、「定義法」などの中で使用される中国語を日本語に置き換えても日本語話者の学習者にとっては有用性があると筆者は考える。日本で使用される日本語話者用の学習辞典や教材では、固有名詞や比喩義が極めて強い語、また慣用句等に対しては、日本語を用いた「文の形による方法」の使用が見受けられる。ただ、そのほか下の例のように、一般名詞や動詞等についても、本来中国語で記述されている文を日本語に訳して使用することが可能である。訳語を付す方法の補足、或いは取って代わる方法として、適宜使用することが語彙指導における課題の一つである。

功课：①学生按照规定应该学习的知识和技能②老师给学生留的作业《学》
　　①学生が規則により学習すべき知識や技能②先生が学生に課す宿題[12)]
成全：帮助人达到某种目的或实现某种愿望《现》
　　人がある種の目的を達成することや、願望を実現することを助けること
温馨：温和芳香，形容一种使人幸福的感觉。《高级汉语口语下册：132 页》
　　穏やかで気分がよいことで、ある種の人を幸せにさせる感覚を形容する

4.4　文脈を示す方法（その語が含まれた例文の提示）

対象語を含んだ例文を提示し、文や文脈により語義の理解を促す方法で、中国語で“语境法”（文脈法）と言われる。一般的な辞書の体裁は見出し語に対して“释义”（語義記述）と“示例”（用例）が示されるが、本方法は「用例文」を「語義記述」の代わりに使用するものであり、語義の深さに対する理解を促す効

果があると見なすことができる。ただ、筆者の調査によれば、この「文脈法」が、実際に学習辞典や教材において単独で使用されることは極めて少ない。

高燕（2008）、曾立英（2010）では、“语境法”（文脈法）の主な機能としては、文例を提示することで、文法的な用法や語用的な特徴を学習者に対して明確にする。主に文化義が強く具わった慣用句などの固定フレーズに対して効果があることが述べられている[13)]。

「文脈法」は語の概念義だけでなく、文法や語用的特徴、その他コロケーション等の理解を促す作用があることは明白である。しかし、語義を直接示す方法とは異なるため提示する用例文によっては、誤った語義を学習者に認識させてしまう懸念が生ずる。そのため、日本語話者の学習者に対しては、語の概念義が比較的理解しやすい日本語と同形同義の語や、形態素義から語義がある程度類推できる語に対する使用が適当である。また示した文の文意を正確に読み取れなければならないので、初級レベルの学習者に対してよりも、中級レベル以上の学習者に適する方法であると言える。学習者の語彙学習において、学習後もその定着性を高め、さらに受信語彙から発信語彙への発展が重要であるが、「文脈法」はこの段階での使用が最適であろう。つまり、学習者にとって新出の未習の語に用いるというよりは、既習の語に対して、繰り返し学習させる際に、その使用価値が認められる。

この点を加味すれば、この「文脈法」は学習辞典における使用には適さないが、中級教材（既習者用教材）や、授業時での直接的な語彙指導では、十分にその効果が見込める。

4.5　形態素による方法

二つの形態素から成る、例えば「ＡＢ」という形式から成る二音節語（合成語）について、その語の意味を総体的に捉えるのではなく、構成要素である形態素の「Ａ」と「Ｂ」に分けて、語義を記述する方法である。語の内部の構造に注意し、構成要素である形態素に分解して語義記述をするという点では、語義を総体的に捉える前述した本章の 4.1、4.2、4.3 で示した方法とは対極的であると言える。万艺玲（2010:203 頁）には、以下のような形態素による語義記述の具体例が示されている。

认错—“认”是承认，“错”是错误，认错”就是承认错误。

蛙泳—“蛙”是青蛙，“泳”是游泳，像青蛙那样的游泳的姿势就是“蛙泳”。

筆者の観察では、学習辞典や教材において、この形態素による語義記述の方法が使用される例は前述した 4.1 や 4.3 の方法と比較すると少ない[14)]。

中国語の学習辞書や教材においては、以下のように、ＡＢ：ＡＣＢＤといった方法がよく見受けられ、一種の形態素を利用した語義記述の方法であると見なすことができる。

守护：看守保护《汉》　　培训：培养训练《学》

家务：家庭事务《现》　　精致：精巧细致《学》

支书：支部书记《现》　　公正：公平正直《说汉语谈文化（下）：69 页》

意味面における形態素義と語義の関係についての指標である「意味の透明度」[15)]、「自由形態素」と「拘束形態素」、さらに「形態素義の多義性や常用度」など、本方法の使用の適用性を高める上で、注意すべき事項は多いと言える。ただ、漢字の理解度が高い日本語話者の学習者を対象にした場合、教員側が適宜使用すれば、学習者の語彙学習の効果を高める一つの方法であることは明白である。

下に示す例は、すべて「形態素による方法」が使用されていない例である。これらの語については、日本語話者の学習者に対しては、万艺玲 (2010) において提示されているような「形態素による方法」を用いることにより、一定の効果があると判断できる。

白天：从天亮到天黑的一段时间 (和“黑夜”相对)《学》

老虎：虎的通称《学》

春运：运输部门指春节前后一段时间的旅客运输《现》

坏处：对人或事物不利的方面 ; 坏的方面 (跟“好处”相对)《现》

法院：根据法律 , 独立行 (xíng) 使审判权利的国家机关《学》

怀疑：不相信而疑惑《汉》

重播：广播电台、电视台重新播放已经播放过的节目《现》

最初の“白天”の例から述べると、“白”から「明るい」という意味の類推や理解は難しく、この形態素義を明示することにより語義全体の解釈につながる。次の“老虎”における“老”も、これが所謂「接頭辞」であることは、明示的な学習をさせる方が望ましく、辞書や教材における語義記述においても常に付記することを提案したい。“春运”についても、とくに最初の“春”から「春節」という意味の類推や理解は容易ではない。これらの例については、“白”「白い」、“老”「老いた」、“春”「(季節の) 春」と解釈すると正確な語の意味の理解に弊害をもたらすので、誤解や誤用にもつながる。「形態素による方法」を使用することにより、これらの誤りを防止する役割も期待できる。

“坏处”と“法院”については、“处”や“院”は形態素として、語の生産性が高く、また常用度も高い。これらの形態素義を知ることにより、後々“处”や“院”を構成要素とする語を学習する際は、容易に理解でき、また学習後の定着度を高めることも期待できる。

次の“怀疑”は「疑を抱く」という動目構造、“重播”は「重ねて放送する」という修飾構造の合成語である。これらの語については、このような語構成についての構造性を含めて学習した方が誤解の防止に役立つ。日本語話者の学習者は漢字に対しての知識がある分、“怀”は「ふところ（名詞)」、“重”は「おもい(形容詞)」として認知してしまう傾向にあると言えるが、形態素による語義記述を使用した場合は、漢字の知識から生ずる負の干渉も防ぐことが可能となる。

形態素による方法はどちらかと言えば、中級レベル以上の学習者に対する方法として見なされる傾向にある[16)]。ただし、筆者は二音節の実詞で、形態素義と語義による透明度が高い語、さらに日中異形語で漢字義からは語義の類推が難しいタイプの語などに対しては、初級の段階でもその使用が可能であるという見解を持っている。辞書や初級の教材において、以下のような、日本語を用いた形態素による語義記述の方法の使用を提案したい。

请假：“请”は「要請する」「頼む」ことを示す、“假”は「休暇、休み」を示す

菜单：“菜”は「料理」、“单”は「リストや伝票」を指す

发烧：“发”は「発する」ことを示す、“烧”は「体熱」を示す

牙刷：“牙”は「歯」を示す、“刷”は「ブラシ」という意味である

4.6　完全文定義法

4.4 で示した「文脈法」と同様、対象語をある文脈や文の中で示す方法である。まず対象語が含まれる単文を提示し、さらに前に提示した文の解説をする比較的平易な文を示す。このように「完全文定義法」は「導入文」と「解説文」の二段構えで、その語が使用される文や文脈から、学習者に対象語の語義を暗示的に習得させる方法であると言える[17)]。

本方法は、他の語義記述の方法と比べると辞書や教材等で使用される比率はかなり低い。《当代汉语学习词典》は中国で出版された国際漢語教育用の学習辞書であるが、本書においては、以下で示すような「完全文定義法」が見出し語の約85％に使用されている[18)]。

木头 : 这些桌子是～做的，怕火。→这些桌子是用干的树木做成的，怕火。《当》

实在 : 他经常帮助别人，对人特别～。→他经常帮助别人，对人真心实意。《当》

日本語話者の学習者に対しては、4.4 の「文脈法」と同様、語の概念義が比較的理解しやすい日本語と同形同義の語や形態素義から語義がある程度類推できる語に対する使用が適当である。一つの語に対して、用法や語用上の特徴も含めた理解、つまり「語彙の深さ」の面での語彙力を身に付ける目標に応じた方法と見なすことができる。

さらに、日本語の漢語語彙と同形ではあるが、意味にわずかな差異がある日中同形近義語に対して、本方法の使用に有用性があると見なせる。例えば、“整頓”や“提出”のように、語の基本義は日本語と同じであるが、動作の対象が「具体性・抽象性」のどちらかという点で、日本語と反対になるもの。また“視察”や“注意”などの動詞のように、動作の仕手と受け手の関係の面で、日本語と異なるタイプの語などが挙げられる。これらの語に対して本方法を使用することにより、コロケーションやその語が使用される文意を通して、同形の日本語との差異を暗示的学習によって気づかせる効果が見込める。

ただ、この「完全文定義法」は文単位での中国語の読解力が必須であり、学習者の母語である日本語は基本的に使用できないため、初級レベルの学習者には不

向きである。また「導入文」と「解説文」の二つを提示する必要があるため、語義記述の原則である「簡潔性」は著しく低くなるというデメリットも生ずる。

4.7　括弧による注記を用いた方法

前述した 4.3 の方法の一種で、以下のように記述の一部に「括弧」を用いる方法である。

获得 :（经过努力）取得；得到（令人满意的事物）《现》
后果 : 结果；将来的结局（多用于消极方面）《现》
积极 : 好的；正面的；肯定的（多用来修饰抽象事物）（和“消极”相对）《学》
精彩 :（表演、演讲、文章等）完美、出色，使人赞赏《学》

この方法は、日本で使用される日本語話者の中国語学習者が使用する「中日辞典」などにおいても常用される方法である。章宜华（2011）では、定義法による語義記述の中で、括弧の中に入るのは、そのほとんどが文法面における情報、使用上についての文脈等に関する情報、語の語感的な特徴であることが述べられている[19]。

本方法は教材においても常用され、すでにある程度定着した語義記述に関する一般的な方法として認識されている。しかし、本方法の使用に関する「過度の記述」の問題が一方で指摘されている。辞書等における語義記述は本来、見出し語となる語自体が示す意味を記すのが原則であり、結び付く語の語義を含めた語義記述は慎重にならざるを得ないという見方である[20]。ただ、国際漢語教育の場で使用される辞書や教材においては、必要と思われる語彙情報は、すべて明記することが適切であると筆者は考える。上の例からもわかるように、括弧で括った箇所にある情報は、語感がなく、中国語を外国語として学習する学習者にとっては極めて重要である。例えば、上で示した“获得”は、使用される文の意味構造における意味役割の面で、手段や対象を示す語が括弧内に示されているが、これらの語彙情報は“获得”という語を全面的に理解するためには不可欠なものであると言える。

5. おわりに

学習者の母語を使用した場合の語義記述の方法は、おおむね「訳語」に限定されるとの認識がなされがちである。上述したような語義記述の方法において、「訳語」を付す以外の方法は原則的に目標言語である中国語が使用される。そのため、主に日本語を媒介語とする日本の大学等での中国語教育の場においては、その注目度は決して高くない状況が見られる。中国語の語を中国語で解釈、理解し習得するというプロセスは、どちらかと言えば、中級以上のレベルの学習者にとってのみ可能であり、比較的高度な学習方法という認識が教員と学習者の双方にあると言える。入門から初級段階の学習者が圧倒的に多い日本の大学における中国語教育においては、平易で、また利便性が高い「訳語」を付すということが唯一無二の方法とされてきたことは当然であろう。ただ、いかなる語義記述の方法も、使用言語は目標言語である中国語という原則を維持しつつ、補足的に学習者の母語である日本語を用いたり、或いはすべての記述を日本語で置き換えたりすることは決して不可能ではない。

語義記述の方法は、本稿で考察した7つ以外にも、「公式による方法」や「意義素分析を用いた方法」など、教育の場における使用の適用性を模索すべきものが多くある。また、日本語話者の学習者に限定すると、常用語彙の約40％を占めるとされる「日中同形同義語」に対する「学校：学校」、「政治：政治」、「経済：経済」といった記述は再考の余地があり、新たな方法を見出すことが課題であると言える。このように、既存の方法の適用性を考察すると同時に、さらに新たな語義記述の方法を創出することを目的とし、今後さらに研究を進めたい。

〈注〉

1) 魏向清 (2005：25 页) には、“我们倾向于将词典定义与 Lexicographical Definition 对应，词典释义对应于 Lexicographical Interpretation，而词典译义则对应与于 Lexicographical Transtlation.” という記述がある。中国語の“释义”は実際、“词典定义”や“词典译义”のことを指すこともあるが、本稿で考察の対象とする“释义”は、ここで言われる「词典释义　Lexicographical Interpretation」に相当するものである。

2) 単音節語の語義記述については、「形態素」を用いるなど、語の分解性を利用する

ことが不可能である。また、虚詞の語義記述については、一般的に用法上の性質が記されるなどの特徴があるため、本稿では二音節の実詞に限定し、考察を行なうこととした。

3) 図に示した以外にも、李尔钢（2006）、刘座箐（2013）、曾立英（2010）、梁莉莉（2015）、章宜华（2011）において、“释义法”（語義記述の方法）に関する分類がなされている。

4) 単語に複数の意味項がある場合で、使用されている方法が異なるものについては、筆者の判断で常用性が高い方の意味項目を採用した。

5) 本稿における用例の引用については、すべて各辞書や教材における「見出し語」と「語義記述」の箇所だけを示した。以下の用例についても同様である。

6) 李智初（2012）、刘座箐（2013）には、以下のような記述がある。
（一）同义对释（中略）学习型词典应摒弃这种方法，否则，对于二语习得者来说，只知道甲词就是乙词，但是不知道甲词和乙词用法有何区别。 李智初（2012：37 页）
有些词语很难找到合适的对译词，而用大致对应的词语进行解释会不够准确，这些不准确的对译词又容易造成新的混淆。刘座青（2013：53 页）

7) 語義記述の原則の問題について、章宜华（2012：207－213 页）は、“多维原则”、“简化原则”、“分解原则”、“整体原则”、“闭环原则”、“双语原则”という 6 つの原則を示す。

8) 中国語では ,“举例法”と呼ばれる。万艺玲（2010：203 页）、崔乐（2011）を参照。

9) 李尔钢（2006：112 页）を参照した。

10) 「定義法」、「説明法」、「描写法」は、それぞれ別の方法であるとする見方がある。ただ、一方で、李尔钢（2006：117－119 页）で言われるように「説明法」や「描写法」は「定義法」の一種であるとする見方もある。本稿では、これらはみな文の形式で語義記述をするという観点から、同じ類の方法であると見なす。

11) 章宜华（2012：174－175 页）を参照した。

12) 以下の例も含めて、日本語訳は筆者によるものである。

13) 高燕（2008：66 页）、曾立英（2010：132－134 页）を参照した。

14) 管見によれば、この「形態素による方法」が多用されている辞書として、《外国人汉语新词语学习词典》がある。

15) 「意味の透明度」については、赵玮（2016）を参照した。

16) 万艺玲（2010：203 页）には、以下の記述が見られる。
利用语素来讲授新词比较适合中高年级汉语水平的学生，不仅可以复习以前学过的词语，而且可以培养学生根据语素的意义推测词义的能力，对扩大学生的词汇量和提高学生阅读能力都有帮助。

17) 「完全文定義法」については、张娟、张玲 (2013) において、用例分析と考察がなされている。

18) 《当代汉语学习词典》の序文に、以下の記述がある。

释义方法主要采用“完整句释义法”（占 85%），少部分词条用图示（占 3．5%），英译（占 9.5%）和说明法（占 2%）。

19) 章宜华（2011：271 页）には、括弧を用いる方法の括弧内の内容について、下記の記述がある。

括注信息：a) 提供必要的语法信息；b) 提供使用语境信息；c) 提示语词的细微差别，含联想义、情感义、搭配义等；d) 指出释义结构中的某些选择成分。

20) 章宜华（2012：189 –191 页）を参照した。

〈主要参考文献〉

相原茂、荒川清秀、大川完三郎主編 2004.『東方中国語辞典』東方書店

相原茂編 2010.『講談社中日辞典（第 3 版）』講談社

崔乐 2011．论对外汉语新词语词典的释义原则与方法，《海外华文教育》第 4 期：18–25 页

崔乐、侯敏主编 2012．《外国人汉语新词语学习词典》上海外语教育出版社

方绪军 2008．《对外汉语词汇教与学》北京师范大学出版社

高燕 2008．《对外汉语词汇教学》华东师范大学出版社

国家汉办教育部社科司 2010．《汉语国际教育用音节汉字词汇等级划分》北京语言大学出版社

李尔钢 2006．《词义与辞典释义》上海辞书出版社

李智初 2012．对外汉语学习型词典释义的优化，《辞书研究》第 6 期：37–45 页

梁莉莉 2015．外向型与内向型汉语词典释义与用例对比研究，《汉语国际教育硕士学位论文集》周小兵主编，中山大学出版社

刘座箐 2013．《国际汉语词汇与词汇教学》高等教育出版社

胡明扬等编著 1982．《词典学概论》中国人民大学出版社

黄建华 2001．《词典论》上海辞书出版社

徐桂梅 2010．对日汉语学习型词典的编纂 – 从日本学生典型词汇偏误产生的原因谈起，《辞书研究》第 6 期：98–111 页

万艺玲 2010．《汉语词汇教学》北京语言大学出版社

魏向清 2005．《双语词典的译义研究》上海译文出版社

曾立英 2010．《汉语作为第二语言的词汇教学》中央民族大学出版社

张娟、张玲 2013．单语外向型学习词典之“完整句释义法”，《现代语文（语言研究版）》第 1 期：158–160 页

章宜华、雍和明 2011．《当代词典学》商务印书馆

章宜华 2012．《基于用户认知视角的对外汉语词典释义研究》商务印书馆

赵新、刘若云 2009．关于外向型汉语词典释义问题的思考，《语言教学与研究》第 1 期 :33–40 页

赵玮 2016．汉语作为第二语言词汇教学“语素法”适用性研究，《世界汉语教学》第 2 期：276–288 页

〈用例出典〉

《现》: 商务印书馆辞书研究中心编 2010.《现代汉语学习词典》商务印书馆
《学》: 鲁健骥、吕文华主编 2007.《学汉语词典 (双色本)》商务印书馆
《汉》: 郭先珍、张伟、周行健主编 2015.《汉语 5000 词用法词典》华语教学出版社
《用》: 刘川平主编 2005.《学汉语用例词典》北京语言大学出版社
《当》: 徐玉敏主编 2005.《当代汉语学习词典 (初级本)》北京语言大学出版社
《新》: 李禄兴主编 2014.《新 HSK5000 词分级词典（六级)》北京语言大学出版社
刘元满、任雪梅、金舒年编著 1999.《高级汉语口语上册》北京大学出版社
邓小宁主编、周小兵审订 2010.《高级汉语精读教程 I 》北京大学出版社
吴晓露、程朝晖主编 2009.《说汉语谈文化 (下)》北京语言大学出版社
祖人植、任雪梅编著 2002.《高级汉语口语下册》北京大学出版社

「付記」本稿は平成 28 年度科学研究費補助金（基盤研究 C「MKK371J」課題番号）における研究成果の一部である。